

---

# ある日

れんにゅー

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある日

### 【Nコード】

N4653A

### 【作者名】

れんにゅー

### 【あらすじ】

ある日の出来事。小説家を目指す人とその夢追い人を産んだ人の兄の話。

インターホンが鳴った。

その時俺はやらなくてはいけない事を全て投げ捨てていた。  
ただ面倒だった。

出るか出るまいか考えていたとき、もしかしたら「いつかに応募した懸賞があったたのかもしれない」という考えが腐った頭によぎった。

具の無いラーメンをそのままに、サンダルを履いて俺は古くガタの来たドアを開けた。

来客は母親の兄のようだった。

東京からMTBできたようで、道に迷った、と笑っていた。  
中でお茶でも、と言う俺にすぐ帰る、という近くて遠い兄。  
そしてその兄は帰っていった。

一人でドアを開けて、鍵もチェーンも閉める。

途端、目の前が滲んで拭れた。

ぼろぼろと目から涙がでてきて、鼻からは鼻水が止まらない。

何故かは判らなかった。

だけど、一人でうずくまって泣いていた。

判らない。

分らない。

解らない。

みつともないと思った。

なさけないと思った。

だけどそれ以上に、わからなかった。

だから、先に逝ったあのお馬鹿なわんこの首輪を握り締めて、ただひたすら泣いた。

伸びきった麺と温いスープを無理矢理胃に落とし込んだ。

飲み込みたいのは麺でもスープでもない、情けなさか、みつともなさか。

だから、泣いた。

そして今、俺はパソコンに向かう。

種から花を咲かせるように。

無いものがあるものに変えるように。

夢を現実にする為に。

またきつとしばらくしたら俺は腐る。

失ってからでないと気付かない大切な物を失って、悲劇によって、

気取って、他人の同情を

欲して、繰り返す。

どうしようもない人間だ。

そう気付いたからか、

そう気付けたことが嬉しかったのか、

そう気付いたことが嫌だったのか、

俺にはわからないけれど、

ただ、今でも、泣いていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4653a/>

---

ある日

2010年11月10日02時42分発行